

## 第4学年2組 道徳科学習指導案

### 1 主題名 友だちのことを考えて B【友情・信頼】

教材名 「絵はがきと切手」

### 2 主題設定の理由

#### 【子どもの実態】

- 本学級の子どもたちは、去年からの持ち上がりのクラスということもあり、友だち同士で仲よく遊んだり、互いに助け合ったりして生活することができている。しかし、行動面で間違いをした友だちに自分が思ったことを言えないこともある。
- これまでの経験をもとにして、自分の考えを友だちに話すことができる。しかし、友だちの意見を聞いて、それに対する自分の意見を話したり、疑問に思ったことを質問したりすることができないこともある。
- 道徳的価値に気付き、自分のこれまでの姿を振り返って、できなかったことをどうすればできるようになるか考えることはできている。

#### 【内容項目に関して】

- 友情とは、友人間で互いに通じ合う人情のことである。友情を育むためには、互いによく理解し、信頼し、助け合うことが大切である。そのために、友だちのよさを発見することで理解を深めたり、よりよい友だち関係の在り方を考えたりすることが必要になる。これらは、豊かに生きる上で、互いに成長し切磋琢磨する関係を築くために大切なものになる。
- 本主題に関しては、第3学年では、友だちのことを大切にできなかったときの後ろめたさを考え、互いに信頼し、助け合おうとする大切さについて学んできている。これらの上に立ち、信頼している友だちだからこそ、言いにくいことも言えることが分かり、よりよい関係を築こうと考えることができるようにする。また、第5学年で、異性を正しく理解し、互いのことを尊重できるようにする学習や、友だち関係を築いていくためには、相手の立場になって信頼し合うことが大切であるという学習につなげていく。

#### 【教材の価値】

- 友だちに切手の料金不足について本当のことを言うか悩む主人公に、共感しながら考えることができる教材である。もし、自分だったら、友だちに切手のことを「言う。」か「言わない。」か、考えをつくり、友だちと対話することで、ねらいとする友情・信頼の理解に向けて内面的な自覚を深めていくことができる。
- 友だちに関するアンケートの結果から、自分自身のこれまでの友だちとの関わりを振り返るとともに、これからの自分について考えることで、友情・信頼について価値を自覚し、実践への意欲を高めていくことができる教材である。

#### 【見方・考え方を深める「対話」】

本時指導にあたっては、まず、「つかむ段階」で、友だちに関するアンケートの結果をもとに、これまでの自分と友だちとの関わりを想起させることで、本時学習のめあてをつかむ。次に「深める段階」では、主人公と自分を置き換えて考え、自分の体験をもとに話し合うことができるようにする。また、「ひろ子さんは、正子さんが何を『きっとわかってくれる。』と思ったのでしょうか。」と深める発問を行い、友だちだからこそ、相手のことを考えて行動することが大事であると気付き、友情・信頼の価値を明確化する。そして、「みつめる段階」では、これまでの友だちとの関わり方について自分の体験を振り返り、これからの友だちとの関係の築き方を考えることで、実践への意欲を高めることができるようにする。

対話1では、主人公と自分を置き換えて、自分だったら友だちに本当のことを言うか考える活動を仕組む。対話することで、友だちだからこそ、相手のことを考えて行動することが大事であることに気付かせ、ねらいとする友情・信頼の理解に向けて、内面的な自覚を図る。

対話2では、友情・信頼の価値理解をもとに自分を見つめ、これまでの自分はどのように考えていたか（行動していたか）、どのように深まっていったか、これからの自分はどのように実践していきたいか考える活動を仕組む。対話することで、互いの考えやこれから取り組んでいきたいことを知ることができ、自他の考えの深まりや対話のよさを実感することで、これからの実践の意欲を図ることができる。



ひろ子

○ 正子から絵はがきをもらって…

・こんなにきれいな絵はがきをもらえてとてもうれしい。  
・お礼の手紙を書きたい。

兄「言う。」

・正子さんがこれから間違わないで済むから。  
・話さないといつまでも気になるから。

友だちだからどうすべきか考え悩む。

母「言わない。」

・これくらいのことはいわなくてもいい。  
・正子さんに嫌われて、仲が悪くなるかもしれない。

正子さん、きっとわかってくれる。

・正子さんのことを考えて切手のこと  
・言いづらいことだけど、自分のために言ってくれたこと。

よりよい友だち関係

友だちのことを考える。